

科目ナンバー： BC2143

授業コード： 2230201400

講義科目名称： 成人看護学実習

英文科目名称： Clinical Nursing Practice in Adult Health Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3学年	5単位	必修
担当教員			
◎高柳智子、◎小林綾子、◎石岡幸恵、石田和子、樺澤三奈子、横川史穂子、相澤達也、坂田智佳子、杉山潤、佐藤咲子			
添付ファイル			

授業種類	【開講】 通年	【授業時間】 150時間		
	【担当教員】			
	【氏名】	【所属】	【研究室】	【メールアドレス】
	◎小林 綾子 cn.ac.jp	新潟県立看護大学	205	otsuka@niigata-
	◎高柳 智子 cn.ac.jp	新潟県立看護大学	203	takatomo@niigata-
	◎石岡 幸恵 cn.ac.jp	新潟県立看護大学	310	ishioka@niigata-
	石田 和子 cn.ac.jp	新潟県立看護大学	317	kazukoi@niigata-
	樺澤 三奈子 cn.ac.jp	新潟県立看護大学	318	minako-k@niigata-
	横川 史穂子 cn.ac.jp	新潟県立看護大学	204	yokokawa@niigata-
	相澤 達也 cn.ac.jp	新潟県立看護大学	共同研究室 3	aizawa@niigata-
	坂田 智佳子 cn.ac.jp	新潟県立看護大学	共同研究室 3	sakata@niigata-
	杉山 潤 cn.ac.jp	新潟県立看護大学	共同研究室 3	junsugi@niigata-
	佐藤 咲子 cn.ac.jp	新潟県立看護大学	共同研究室 3	sakifuse@niigata-
	実務経験のある教員が担当する。			
	【大学の科目区分】 専門科目			
	【保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める種類】 看護師課程			
	【DP 1】 【DP 2】 【DP 3】 【DP 4】 【DP 5】 【DP 6】 【DP 7】 ○ ◎ ○ ○			

到達目標	<急性・回復期看護実習> 1. 成人期にある、健康障害をもつ人の状況を全人的な視点から説明できる。 2. 成人期にある、健康障害をもつ人と家族が、最適な健康状態に回復するために、あるいは疾病・障害を持ちながら生活の調整・再構築を行うために必要な援助を行うことができる。 3. 成人期にある、健康障害をもつ人を全人的に受け止め、相互作用を通して看護観を表現できる。 <手術室看護・集中治療ケア実習> 1. 高度な集中治療を必要とする患者・家族の特徴と集中治療における看護を説明できる。 2. 手術室見学により手術室の環境および手術室看護について説明できる。 3. 手術室看護・集中治療ケアにおける多職種チームアプローチの重要性と看護師の役割を説明できる。 <慢性期看護実習> 1. 慢性的な健康障害を持つ人が生活の場で療養を継続するために必要な看護について、血液透析室の見学を通じて説明できる。 2. 在宅療養への移行あるいは維持を目的とするリハビリテーションに取り組む患者への看護について、学内での専門家による講義と看護技術の体験から説明できる。 3. 慢性的な健康障害を持つ人を全人的視点からとらえ、実習を通して看護観を表現できる。
------	--

授業概要	<急性・回復期看護実習> ・内科系・外科系病棟において、原則として急性期～回復期にある成人期の患者を1～3名受け持ち、受け持ち患者の担当看護師の指導や助言を受けながら、看護過程を展開し看護実践を行う。 <手術室看護・集中治療ケア実習> ・手術を必要とする患者や、生命の危機状態にある患者および全身管理の必要な患者の特徴と看護を、見学や看護師と行動を共にしながら学ぶ。 <慢性期看護実習> ・慢性的な健康障害を持つ人や、在宅療養への移行あるいは維持を目的とするリハビリテーションに取り組む患者が生活の場で療養を継続するための看護を、見学や事例検討を通して学ぶ。
授業計画	1 授業内容 授業形態：急性・回復期看護実習 実習期間：3週間 学修課題：成人期にある健康障害をきたした人の全体像を理解し、個別性に応じて、健康の危機状態からの回復あるいは疾病・障害を持ちながら健康を維持・促進するための看護の学修 学修内容：成人期にある患者を1～3名受け持ち、看護過程を展開しながら患者・家族に必要な看護援助を主体的に実施することで急性期・回復期の看護を総合して学ぶ。 事前学修：病棟別に疾患や治療について指示のある課題と成人看護学演習看護過程演習の資料について振り返りを行う。今まで学習した看護技術について復習を行う。 事後学修：看護の実践・見学場面や学生カンファレンスを振り返り各種実習記録をまとめ、実習評価表に自己評価を記載する。 備考：詳細は実習要項とどこカレを参照すること 2 授業内容 授業形態：手術室看護・集中治療ケア実習 実習期間：1週間 学修課題：集中治療室ならびに手術室で行われる急性状況にある患者・家族への看護実践に必要な基礎的看護の学修 学修内容：集中治療室の看護師と行動を共にしながら、看護実践の場を見学あるいは看護援助に参加することを通して学ぶ。手術室の見学や手術室看護師の説明から、手術室の環境や安全管理、看護師の役割について学ぶ。集中治療ケアに関する看護技術演習や視聴覚教材の視聴を行い学ぶ。 事前学修：成人看護学Ⅱ「術中看護」および成人看護学Ⅳ「集中治療を受ける患者と家族の看護」の授業資料と教科書について復習する。成人看護学演習の学修課題の1つである「救命救急に必要な看護技術」演習の事後学習レポートの復習と動画学習を行う。また、「輸液準備と管理技術」演習で使用した演習評価表と点滴静脈内注射手順書の復習を行う。 事後学修：見学実習や学内演習およびカンファレンスを振り返り、学内演習ワークシートや各種実習記録をまとめ、実習評価表に自己評価を記載する。 備考：詳細は実習要項とどこカレを参照すること 3 授業内容 授業形態：慢性期看護実習 実習期間：1週間 学修課題：慢性的な健康障害を持つ人、および在宅療養への移行あるいは維持を目的とするリハビリテーションに取り組む患者への生活の場で療養を継続するために必要な看護の学修 学修内容：人工透析室において、患者が人工透析室に入室し安全に血液透析を受けて退室するまでの一連の過程や看護師が実施する観察やアセスメント、治療の援助・療養生活に関わる看護（心理・社会的支援を含む）の実際を見学し、患者の特徴と血液透析が生活に及ぼす影響や今後予測される健康問題に対する看護を学ぶ。脳血管疾患患者の清潔のセルフケア不足に関連した看護計画を立案し、リハビリテーション技師による臨床講義の内容を踏まえながらグループワークを通し自立に向けた日常生活援助を検討し実施する。 事前学修：血液透析やリハビリテーションに関する形態機能学や病態学、成人看護学Ⅰの「慢性期看護」や成人看護学Ⅲの「腎不全患者および脳血管疾患患者の看護」等の既習の学修内容の復習を行う。 事後学修：見学実習や学内演習（グループワーク）およびカンファレンスを振り返り各種実習記録をまとめ、実習評価表に自己評価を記載する。 備考：詳細は実習要項とどこカレを参照すること
評価方法、評価基準	成人看護学実習5単位の評価は、急性・回復期看護実習、手術室看護・集中治療ケア実習、慢性期看護実習を統合して最終的な評価とし、急性・回復期看護実習60%、手術室看護・集中治療ケア実習20%、慢性期看護実習20%で評価する。各実習での看護実践あるいは参加態度、実習記録の内容、実習記録の提出の有無から、実習評価表の評価項目に基づき、実習目標の達成度を評価する。
必携図書	・鈴木志津枝他 編（2025）：成人看護学 慢性期看護論，第3版，ヌーヴェルヒロカワ 「購入済み教科書」を使用する。 ・雄西智恵美他 編（2020）：成人看護学 周手術期看護論，ヌーヴェルヒロカワ 「購入済み教科書」を使用する。 ・中西純子他 編（2019）：成人看護学 リハビリテーション看護論，ヌーヴェルヒロカワ 「購入済み教科書」を使用する。
参考図書・資料等	成人看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、成人看護学演習で使用した教科書・配布資料とする。その他の参考図書は、随時、口頭またはどこカレ「成人看護学」コースで紹介する。
受講、課題、資料配布等のルール	・オリエンテーション前に実習要項・臨地実習の概要を読んでもくる。 ・看護技術に関して不安な点は、成人看護学実習室を活用し各自で復習をしておく（実習室の開放スケジュール）

	ルや使用方法については、どこカレを参照すること) ・欠席に対する補習実習は、『臨地実習の概要』記載の基準に則って検討する。
教員からのメッセージ	実習は、看護を必要とする患者・家族との関わりを通して対象者を理解することを学び、看護過程を展開する貴重な学修の場となる。講義・演習で学んだ知識・技術を活かしながら、臨床だからこそ得られる学びを大切にし、主体的に自己の知識・技術・専門職としての態度を発展させることを期待する。
オフィスアワー	随時（メールでの調整も可）